

# 2016年3月期 決算説明資料

---

2016年6月

株式会社 AOI Pro.

CREATIVE ALLIANCE  
AOI Pro.

## 1. 連結決算概要

- ・連結売上高推移
- ・連結売上高と営業利益の推移
- ・連結損益計算書

## 2. セグメント別の業績

- ・広告制作事業
  - ・売上高・経常利益
  - ・受注高と受注残高の推移
  - ・四半期売上高推移
  - ・顧客別連結売上高推移
  - ・広告主の業種別売上高(単体)
- ・写真スタジオ事業
  - ・売上高・経常利益

## 3. 連結業績予想(通期)

- ・2017/3月期連結業績予想(通期)

## 4. 株主還元

- ・配当政策の方針
- ・株主優待制度

## 5. 中期経営計画への取組み状況

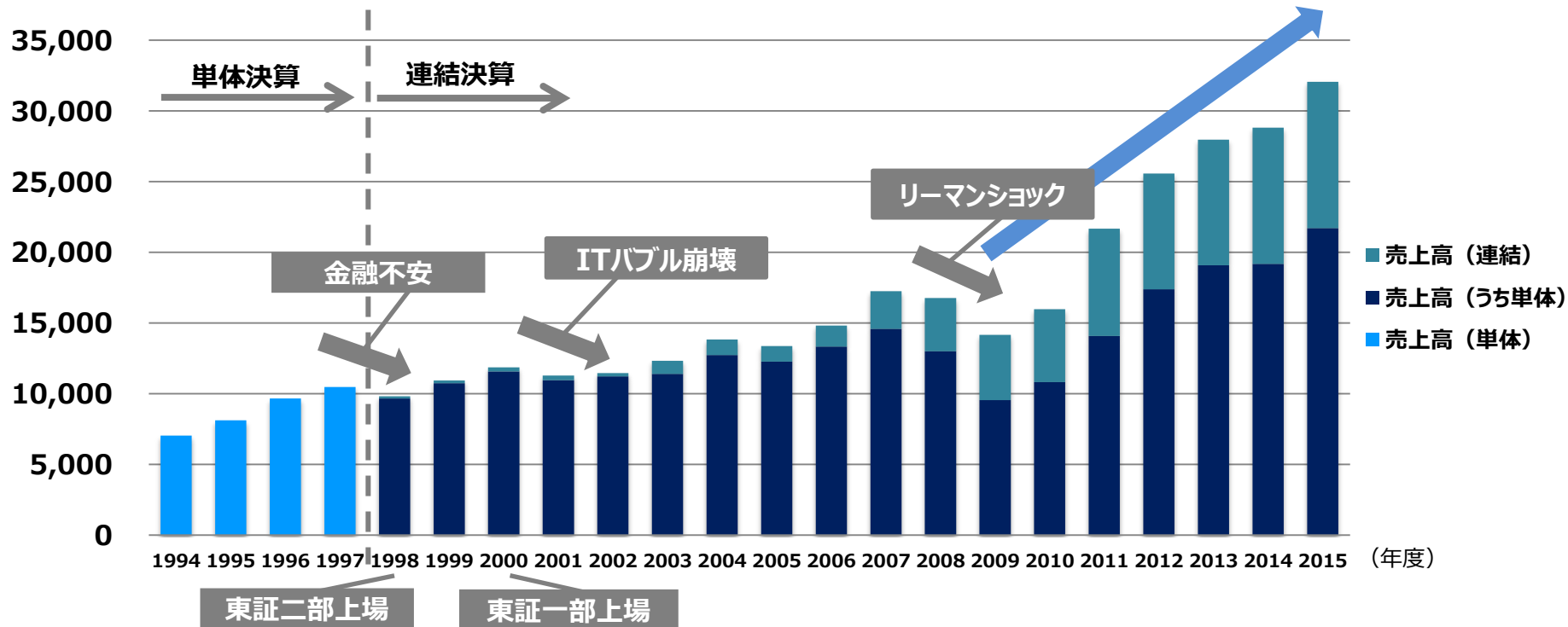
- ・外部環境の変化と当社の課題
- ・経営体制の強化
- ・国内TVCM制作事業
  - ・国内TVCM制作事業の強化
  - ・新システム導入への取組み
- ・海外事業<AOI ASIA>
  - ・<AOI ASIA>の連結売上高・営業利益の推移
  - ・<AOI ASIA>のネットワーク拡充
  - ・海外事業の推進・管理機能の強化
  - ・海外拠点の事業拡大に向けた展望
- ・デジタル関連事業
  - ・「デジタルコンテンツ制作」の連結売上高推移
  - ・デジタル関連事業への取組み①、②、③
- ・その他トピックス
  - ・映画ビジネスへの取組み

- 1. 連結決算概要**
2. セグメント別の業績
3. 連結業績予想（通期）
4. 株主還元
5. 中期経営計画への取組み状況

# 連結売上高推移

- 設立以来、基本的には右肩上がりの成長を維持
- 直近ではリーマンショック後、V字回復し、5期連続で過去最高を更新

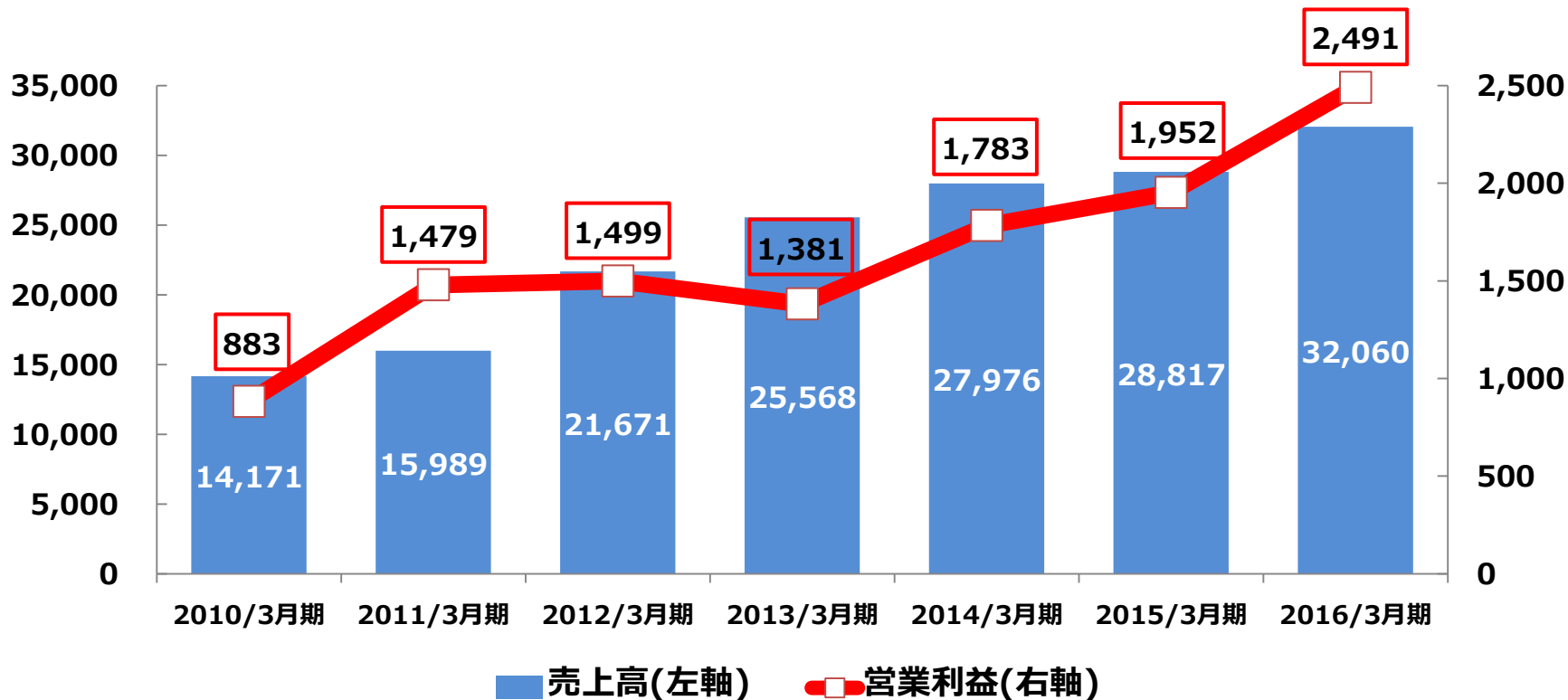
(単位：百万円)



# 連結売上高と営業利益の推移

- リーマンショック後の6年間で、売上高・営業利益ともに2倍を大きく上回る水準に拡大

(単位：百万円)



# 連結損益計算書

- 売上高・利益ともに期初の業績予想を上回って着地
- 売上高・営業利益・経常利益は過去最高を更新
- 当期純利益が減益となった要因は、前期、メディア関連事業会社清算に伴い税金負担が一時的に減少したため

	2015/3月期		2016/3月期		前期比		期初業績予想比	
	売上高比		売上高比		増減額	(%)	増減額	(%)
(単位：百万円、%)								
売上高	28,817	100.0%	32,060	100.0%	3,243	111.3%	2,060	106.9%
※ 売上原価	23,204	80.5%	25,653	80.0%	2,449	110.6%		
売上総利益	5,613	19.5%	6,406	20.0%	793	114.1%		
販管費	3,660	12.7%	3,914	12.2%	254	106.9%		
営業利益	1,952	6.8%	2,491	7.8%	539	127.6%	291	113.3%
経常利益	1,939	6.7%	2,302	7.2%	363	118.7%	152	107.1%
税引前利益	1,792	6.2%	2,193	6.8%	401	122.4%		
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,238	4.3%	1,098	3.4%	-140	88.6%	98	109.8%

※返品調整引当金考慮後

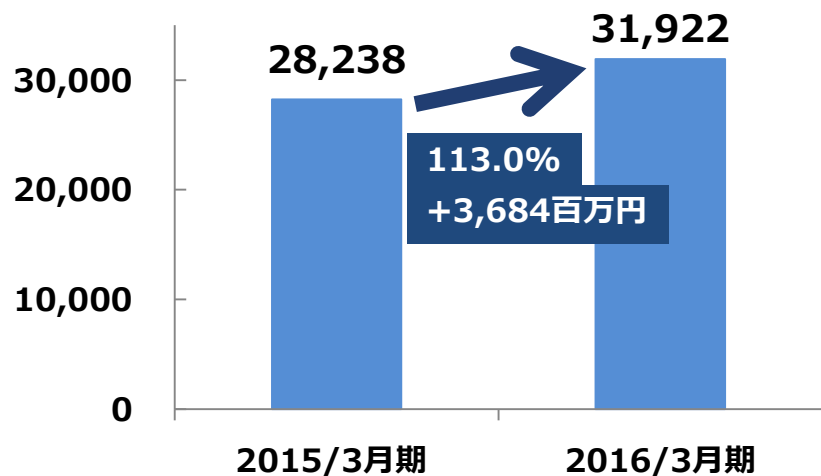
1. 連結決算概要
2. **セグメント別の業績**
3. 連結業績予想（通期）
4. 株主還元
5. 中期経営計画への取組み状況

# セグメント別：広告制作事業 売上高・経常利益

- 主力のTVCM制作事業は、マーケット以上の伸び
- 成長領域と位置付けるデジタル関連、海外拠点の売上高も順調に増加
- 新規事業推進や人材育成・業務効率化(IT化)等の戦略的投資や、撮影スタジオの底地のリースバックによるコスト増をカバーし、前年比増収増益に

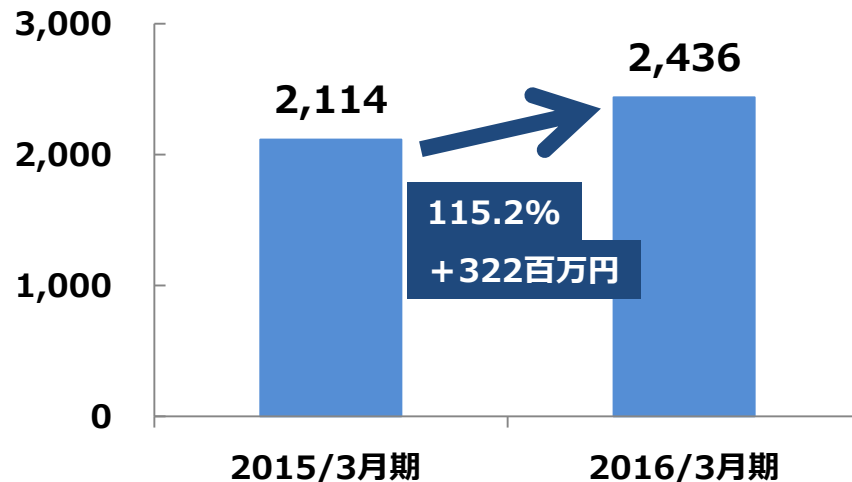
## セグメント別：広告制作事業売上高

(単位：百万円)



## セグメント別：広告制作事業経常利益

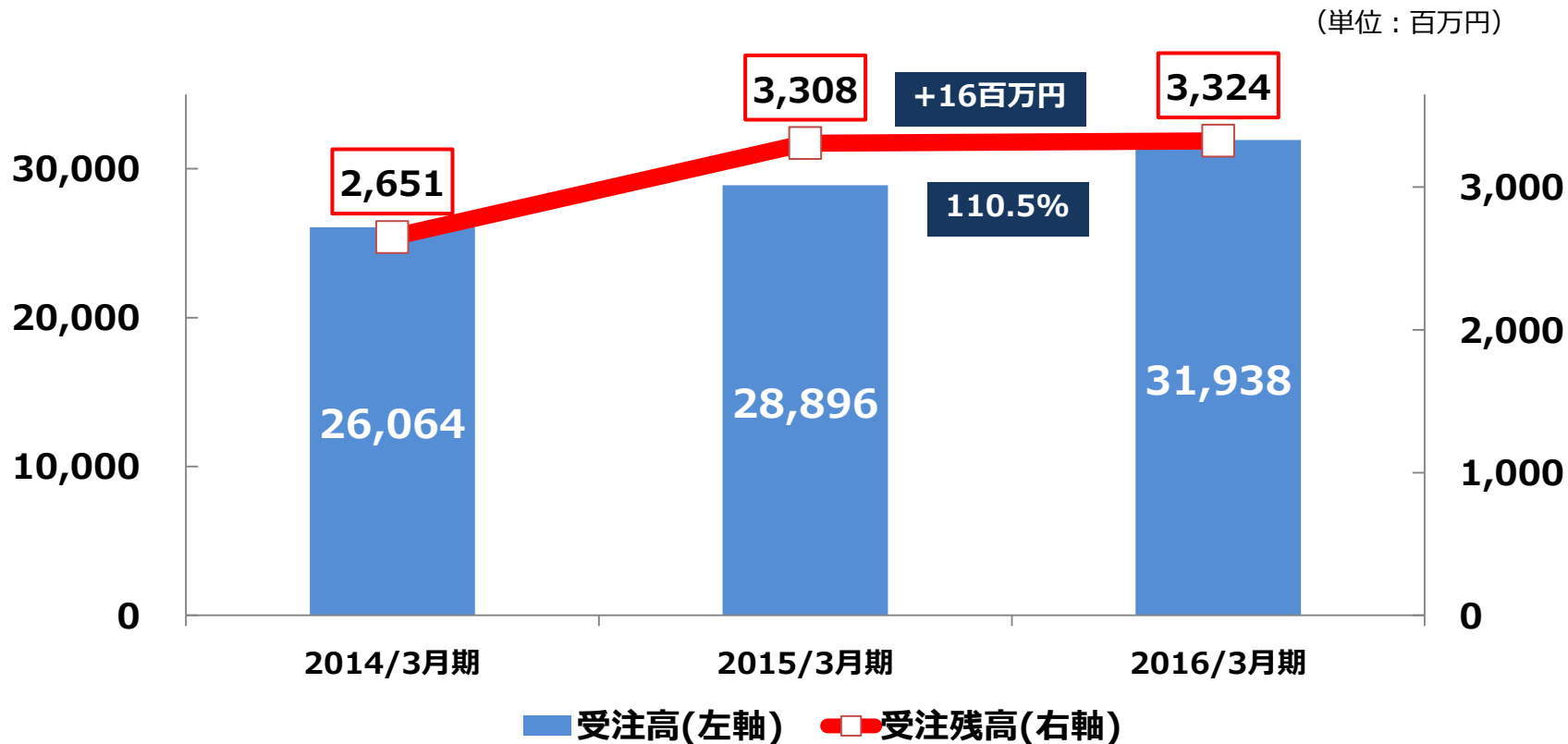
(単位：百万円)

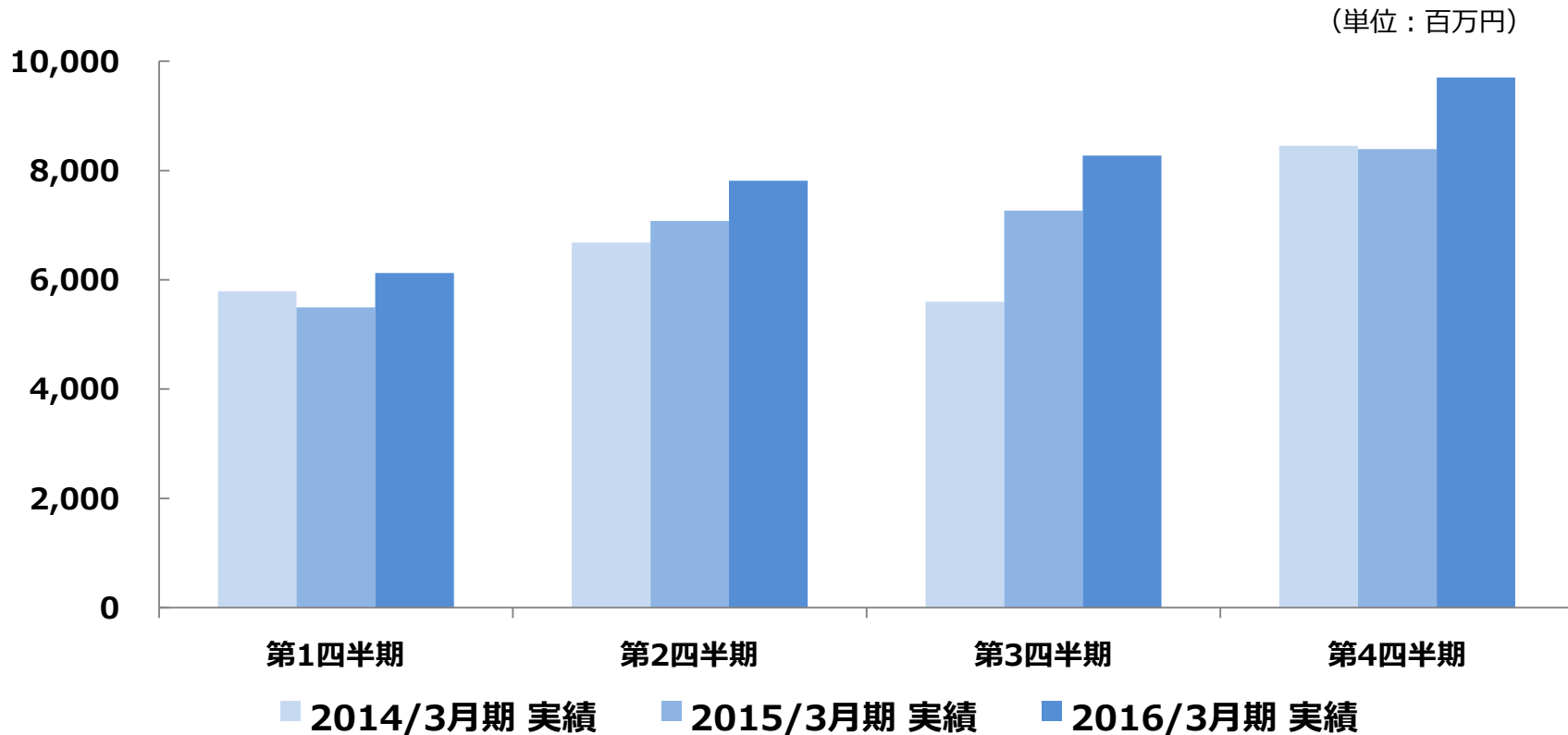




# [広告制作事業] 受注高と受注残高の推移

- 受注高は前期比10.5%増加、期末受注残高は16百万円増加

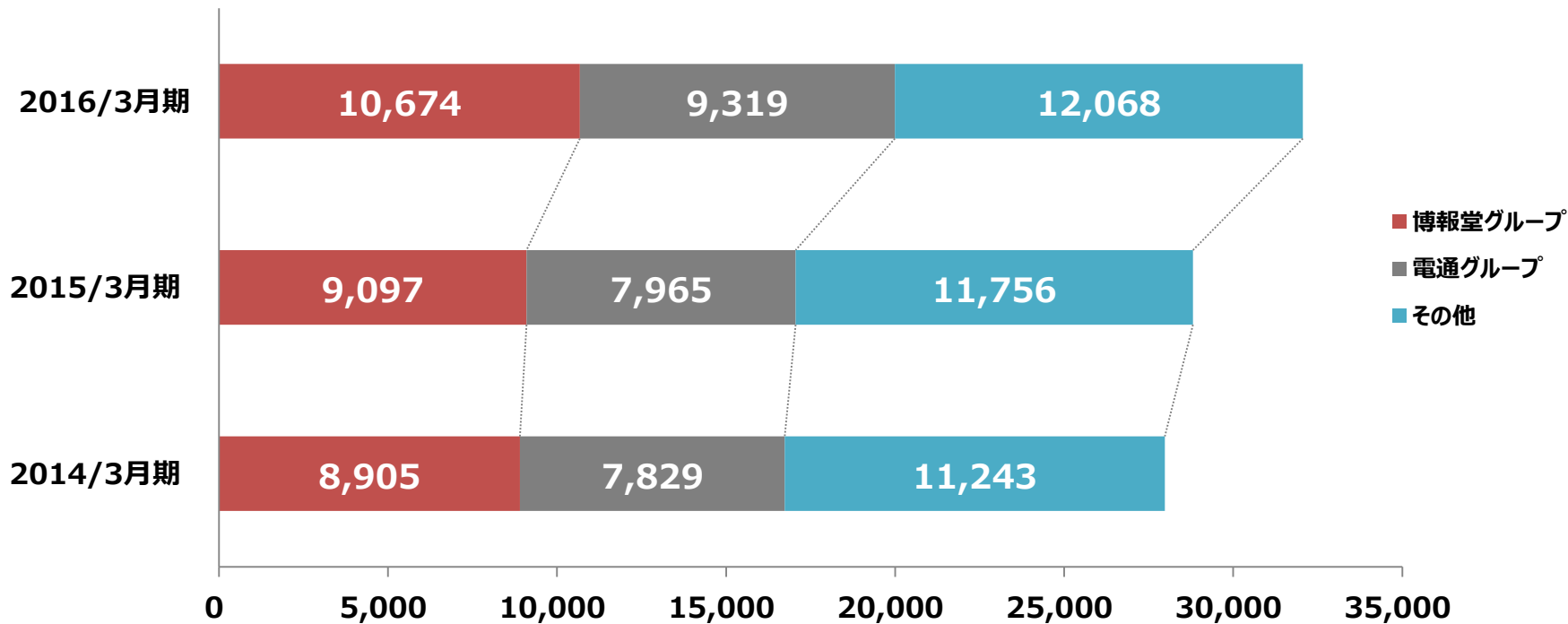




# [広告制作事業] 顧客別連結売上高推移

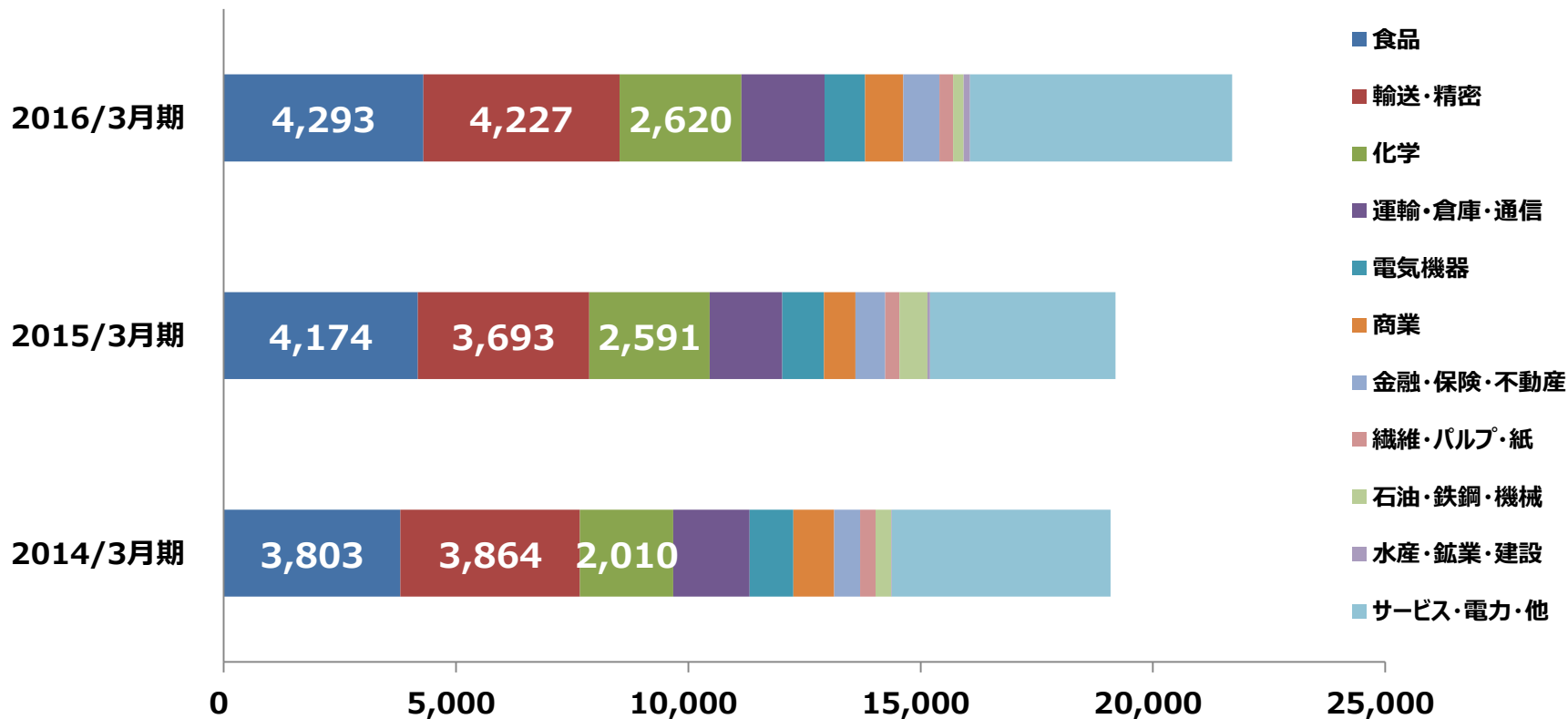
● 博報堂グループ、電通グループともに売上高が増加

(単位：百万円)



# 広告主の業種別売上高(単体)

(単位：百万円)



# セグメント別：写真スタジオ事業

AOI Pro.

# hollyhock

当社グループの映像制作ノウハウを活かした  
ハイクオリティサービスの提供をコンセプトとする  
初のB to C事業

## ▶ コンシューマ向け写真スタジオ運営事業

2010年 9月：六本木東京ミッドタウン店オープン

2014年 4月：横浜ベイクォーター店オープン

2015年 3月：港北みなも店オープン

2015年10月：ららぽーと海老名店オープン

2015年12月：ららぽーと立川立飛店オープン



**AOI Pro.ブランドの認知度向上に貢献**

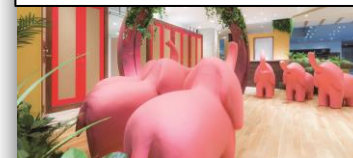
東京ミッドタウン店



横浜ベイクォーター店



ららぽーと海老名店



ららぽーと立川立飛店

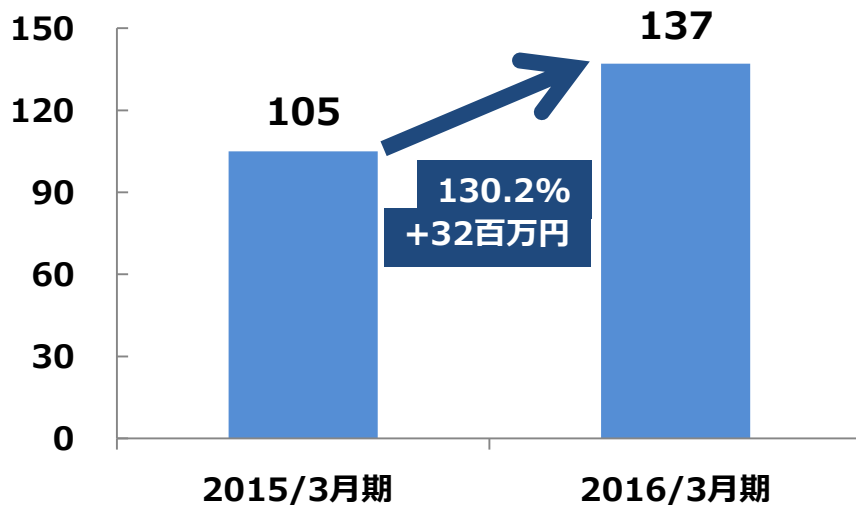


# セグメント別：写真スタジオ事業 売上高・経常利益 AOI Pro.

- 2015年3月の港北みなも店、10月のららぽーと海老名店、12月のららぽーと立川立飛店の新規出店効果もあり、売上高は前年同期比増加
- ららぽーと海老名・立川立飛2ヶ店のオープンに向けた先行的費用負担により、セグメント損失は増加
- これらの大型商業施設への出店による増収効果で、今期は収支トントンとなる計画

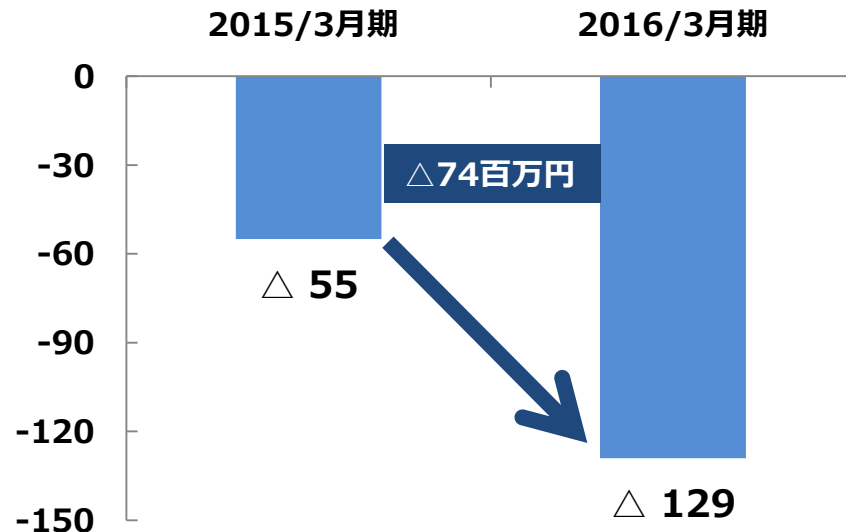
## セグメント別：写真スタジオ事業売上高

(単位：百万円)



## セグメント別：写真スタジオ事業経常利益

(単位：百万円)



1. 連結決算概要
2. セグメント別の業績
- 3. 連結業績予想（通期）**
4. 株主還元
5. 中期経営計画への取組み状況

# 連結業績予想(通期)

- 広告需要が堅調に推移する中、CMを中心とする広告映像制作の売上高も引き続き堅調に推移
- 注力するデジタル関連や海外拠点の売上高も増加
- 増収効果により、戦略的投資等によるコスト増をカバーし、増益基調を維持

(単位：百万円、%)	2016/3月期	2017/3月期	前期比	
	実績	予想	増減額	(%)
売上高	32,060	33,800	1,740	105.4%
営業利益	2,491	2,630	139	105.5%
(営業利益率)	7.8%	7.8%		
経常利益	2,302	2,630	328	114.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,098	1,300	202	118.4%



1. 連結決算概要
2. セグメント別の業績
3. 連結業績予想（通期）
- 4. 株主還元**
5. 中期経営計画への取組み状況

## 〈利益配分の基本方針〉

- 経営基盤と財務体質の強化を図るとともに、株主の皆様に積極的、かつ継続的に利益還元を行う方針
- 配当に関しては今後の収益予想を踏まえ、当面以下のとおり実施
  - ① 配当性向 30%以上
  - ② 1株当たり 年10円以上

## 〈配当予定〉

- 2016/3月期（予定）年間27円(3円増配)
- 2017/3月期（予想）年間31円を予定(4円増配)

## 〈配当の状況〉

	2013/3月期	2014/3月期	2015/3月期	2016/3月期	2017/3月期
	実績	実績	実績	予定	予想
1株当たり当期純利益	26.15円	53.90円	101.38円	88.09円	101.62円
1株当たり配当額	23円	23円	24円	27円	31円
配当性向 (連結ベース)	88.0%	42.7%	23.7%	30.7%	30.5%

## 〈内容〉

### ① QUOカード贈呈

当社株式保有株数に応じて、オリジナルQUOカードを贈呈いたします。

保有株数	QUOカード
500株以上	2,000円分
2,000株以上	5,000円分
5,000株以上	10,000円分

### ② 撮影付オリジナル写真集の作成

ご応募いただいた優待対象の株主様の中から抽選で20名の株主様に、AOI Pro.グループの（株）ホリーホックが、株主様ご本人とご家族またはご友人と一緒に写真撮影を行い、オリジナル写真集にしてお渡しいたします。



オリジナル  
写真集

## 〈株主優待対象者〉

毎年9月30日現在の当社株主名簿に記載または記録された5単元(500株)以上保有されている株主様を対象といたします。

(①は優待対象の方全員、②はご応募された方の中から抽選で20名様)

1. 連結決算概要
2. セグメント別の業績
3. 連結業績予想（通期）
4. 株主還元
5. **中期経営計画への取組み状況**

- メディアやデバイスの多様化、テクノロジーの進化により、広告主の広告費の掛け方やコミュニケーション手法が変化
- 2017年度から数年間で放送局へ対するTVCM素材の提供方法が、オンラインでのデータ送稿へ移行し、プリント売上の減少が見込まれる



**環境の変化により迅速に対応できる経営体制の強化と、  
中長期的に十分な売上と利益を確保できる事業ポートフォリオの構築が必要**



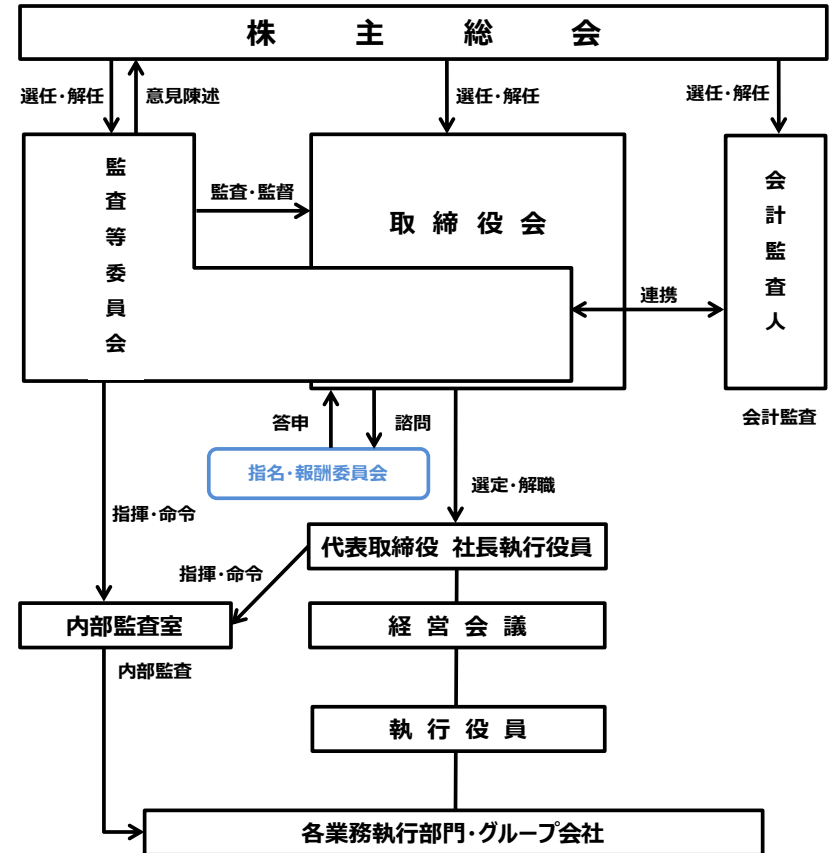
## 〈監査等委員会設置会社への移行〉

(6月28日開催予定の株主総会へ付議)

- 取締役会のモニタリング機能とコーポレート・ガバナンスを一層強化
- 独立社外取締役を3分の1以上とし、指名・報酬委員会を設置 (自主的な取組み)
- より透明性の高い経営の実現と機動性の向上により、中期経営計画の達成を目指す

## 〈執行役員制度の導入〉 (4月1日～)

- 取締役会のモニタリング機能と業務執行機能を分離することにより、業務執行責任を一層明確化
- 経営環境の変化へのより迅速な対応が可能な体制に



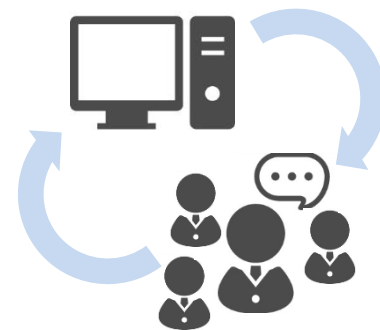
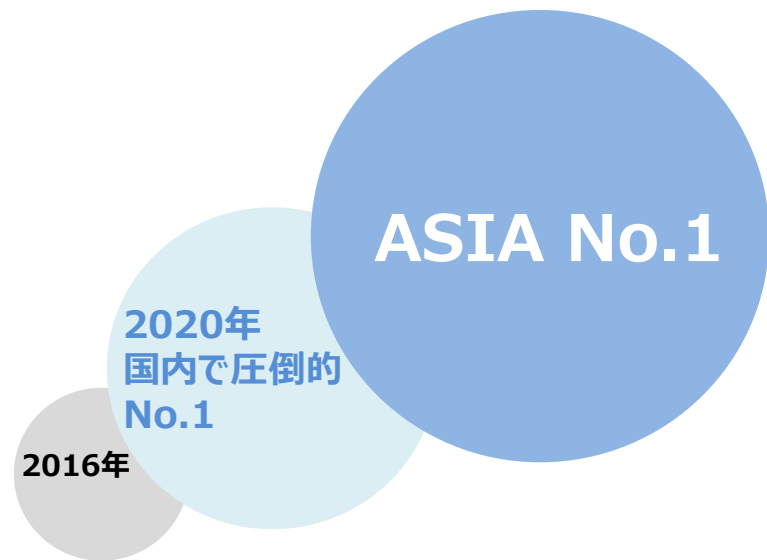
# 国内TVCM制作事業

①よりクオリティの高いTVCMの需要の増加や  
コンプライアンス・情報管理強化に対する要請  
の高まり

➡ **業界最大手の一社として、  
引き続きシェアアップを図る**

②定型業務のアウトソーシングやIT化  
(新システム導入)により、業務効率の向上や  
社内稼動も含めたリアルタイムでの採算管理

➡ **利益率の向上を図るとともに  
比較的単価の低いWEB動画  
への対応も可能に**





## ●あるべき業務のデザイン・実現

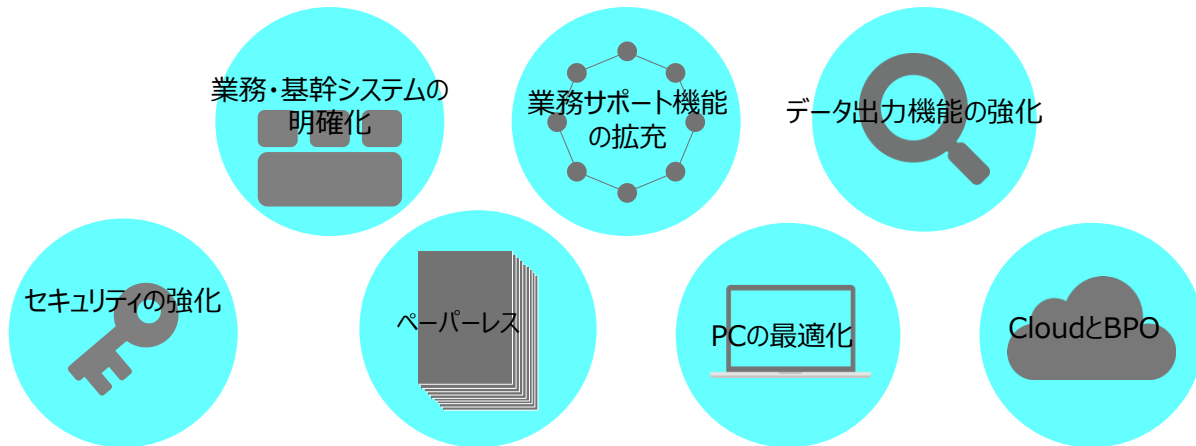
- ・経営戦略を実現するために、業務のあるべき姿をデザインし、その実現手段としてITを活用する
- ・2017年度中の稼動を目指し、今期より新システムへの開発に本格的に着手

## ●ITを活用した業務サポート

- ・業務を効率的に実施できる環境を構築するため、システムの機能強化のみならず、PC等も見直す

## ●足元の強化

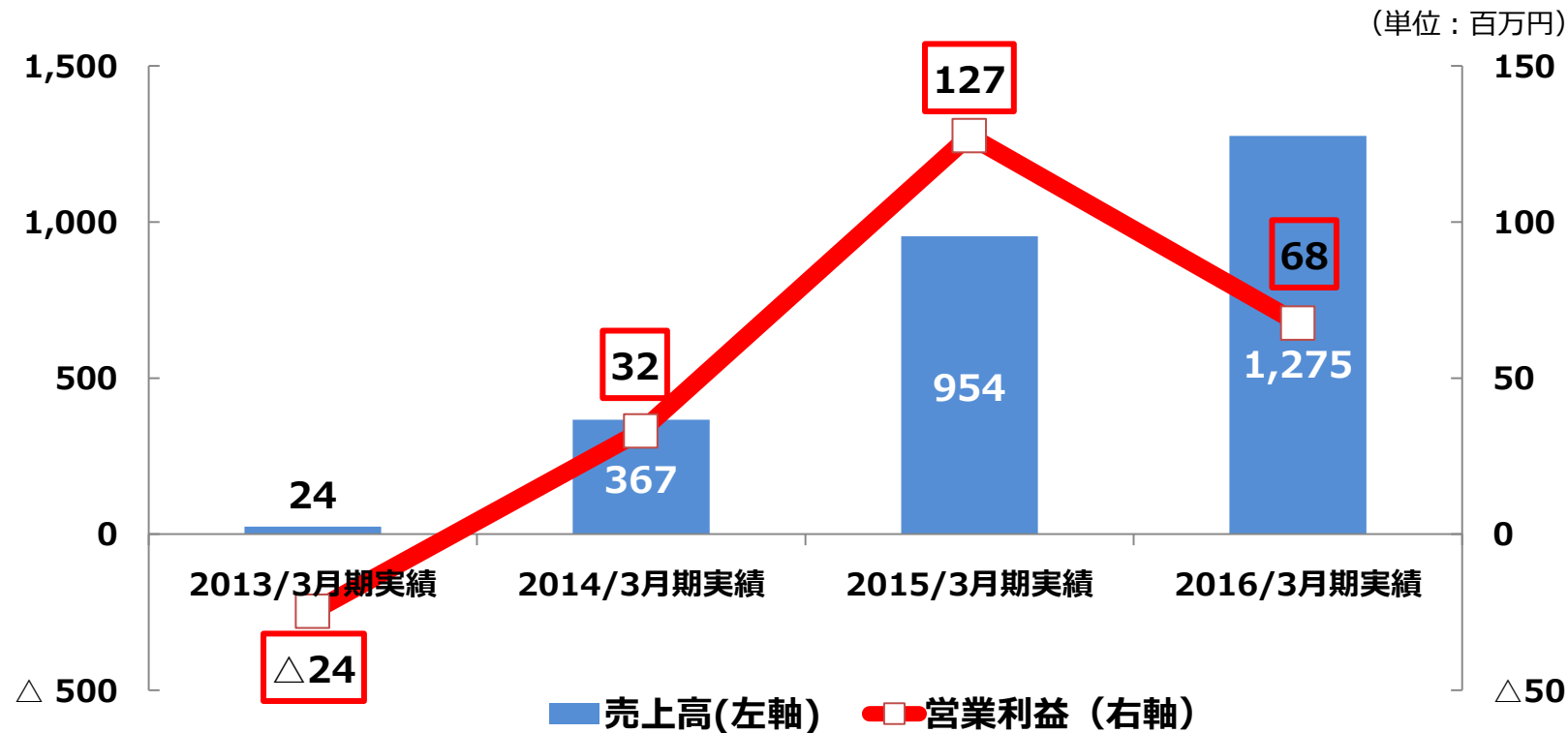
- ・システムの構築に際しては、コンプライアンス対応や将来の柔軟性・拡張性も強化する



海外事業  
<AOI ASIA>

# <AOI ASIA> の連結売上高・営業利益の推移 AOI Pro.

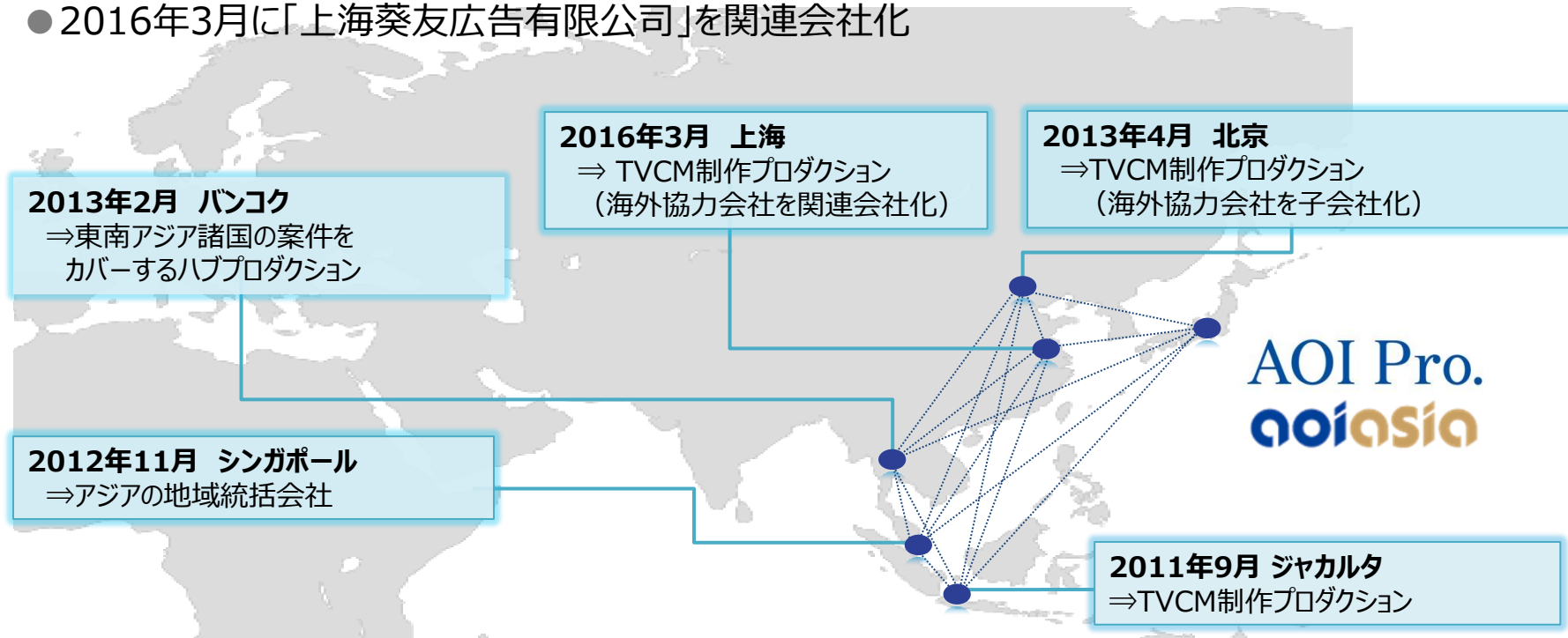
- ローカルのプロダクションを子会社化した北京を中心に売上高が急激に拡大
- 一方で、将来に向けた人員増や一部不採算案件があったこと等により営業利益は減少



# <AOI ASIA> のネットワーク拡充

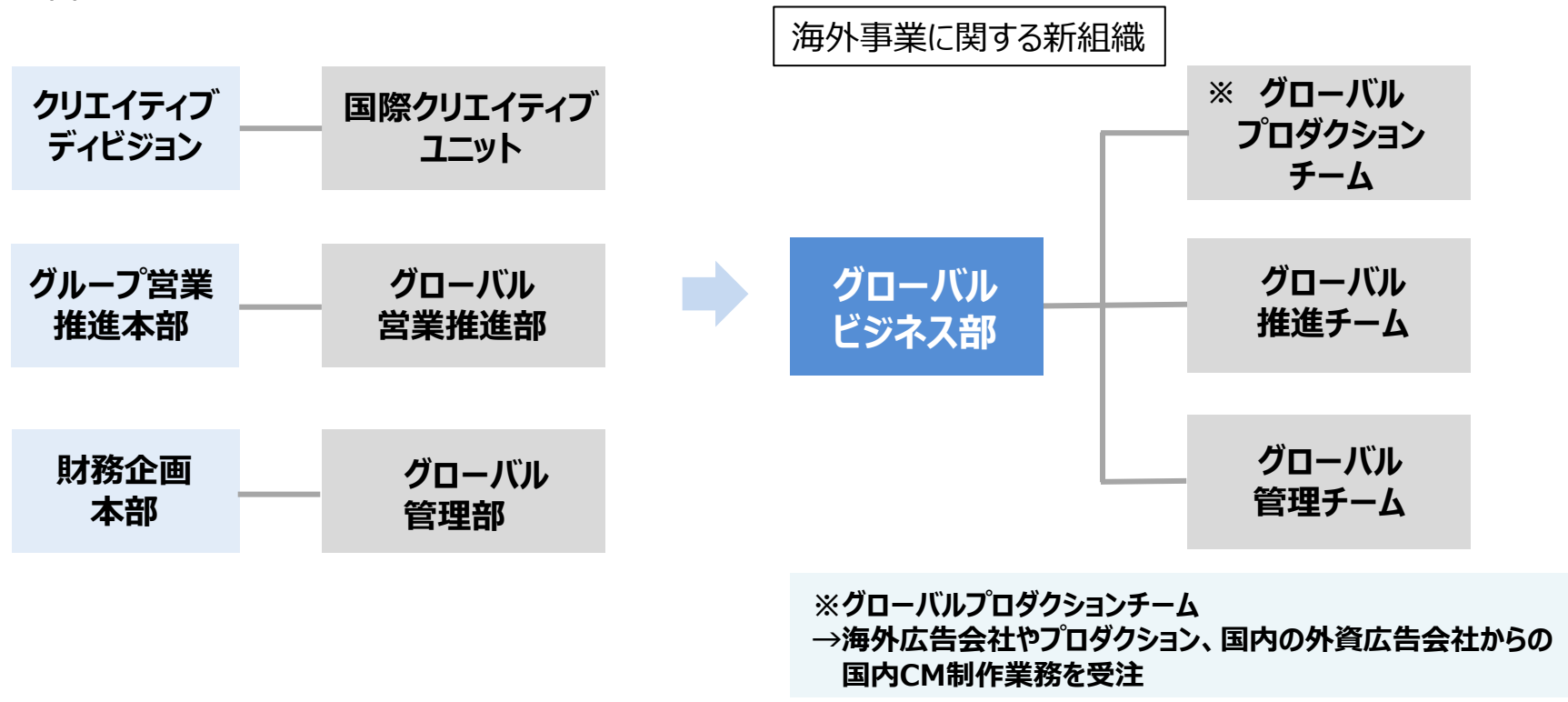
AOI Pro.

- 2011年9月ジャカルタへの現地法人設立をスタートとして、海外の各拠点を線として結ぶ体制を構築、東南アジアを中心とする海外戦略を加速化
- 2013年4月に「北京葵友広告有限公司」を子会社化
- 2016年3月に「上海葵友広告有限公司」を関連会社化

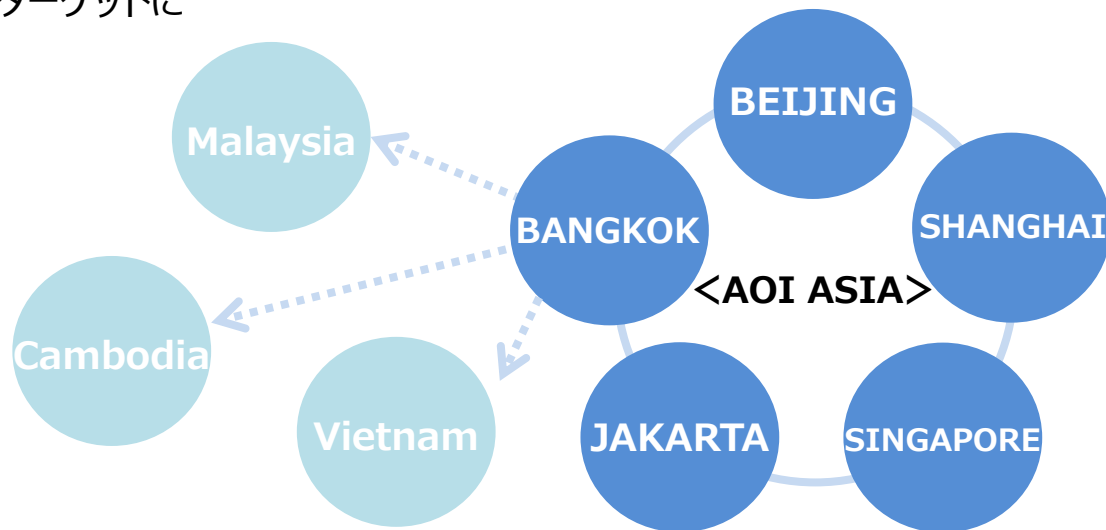


# 海外事業の推進・管理機能の強化

- AOI Pro.の各ディビジョン・本部に分散していた海外関連セクションを集約し、海外事業の推進・管理を強化



- 中国の広告市場は急成長中であり、新体制をより拡充していくとともに、映像編集などの事業領域拡大を検討中
- ジャカルタ、バンコクもローカルプロダクションとのリレーションができつつあり、現地制作体制の強化のため、ローカルプロダクションとのM&Aや、合併会社の設立を検討中
- バンコクについては、今後マーケットの成長が見込めるマレーシアやベトナム、カンボジア等も事業拡大のターゲットに

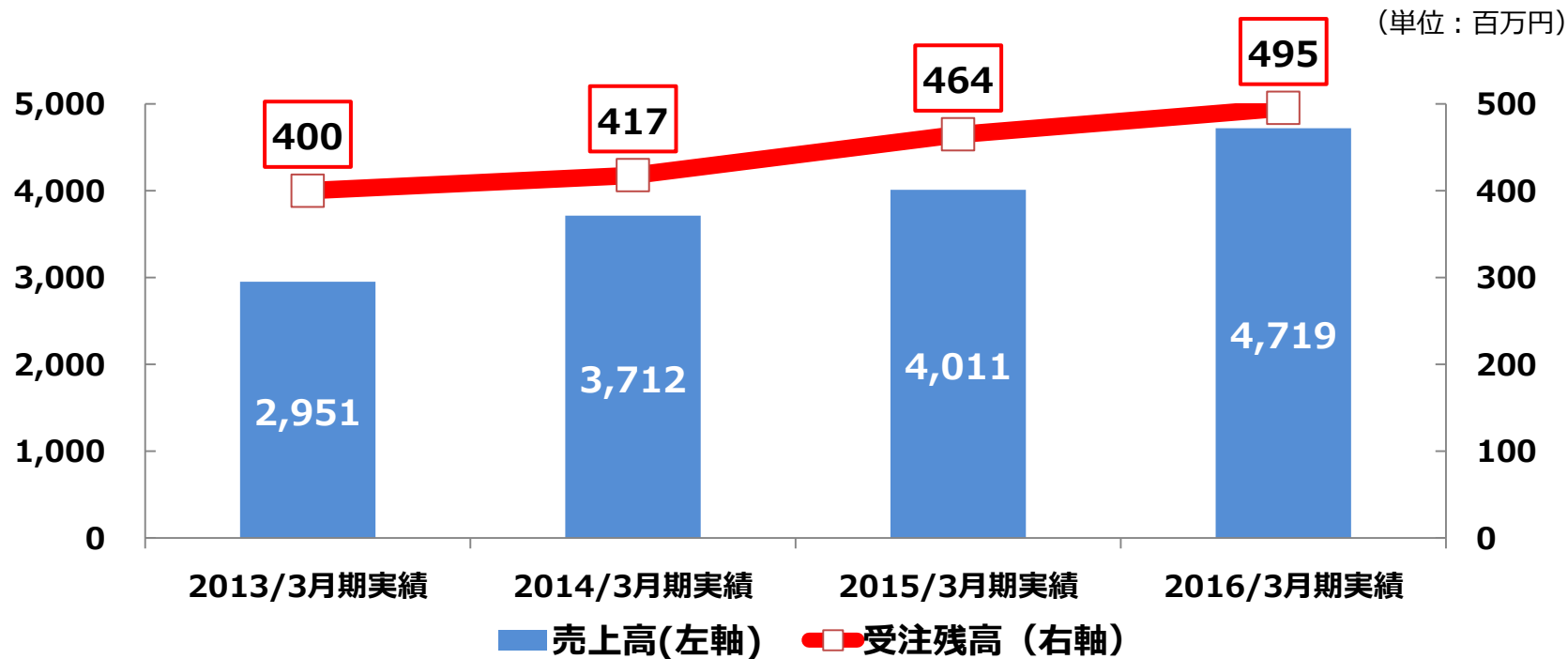


# デジタル関連事業

# 「デジタルコンテンツ制作」の連結売上高推移

AOI Pro.

- AOI Pro.において、ブランデッドコンテンツやバズムービー等のWEB動画の制作を中心に売上が増加





# デジタル関連事業への取組み①

## Quark tokyoの始動

クオークトーカー

Quark tokyo

- 2015年12月に子会社化したナカミノ(株)の社名を「(株) Quark tokyo」とし、新たにスタート
- AOI Pro.グループにおける各領域のスペシャリストを集結し、動画を中心としたオンラインコンテンツの戦略立案、企画、制作、データ解析、メディア配信までのPDCAソリューションをワンストップで提供する体制を構築

### サービスの例

最適なターゲットの選定からコンテンツ制作、広告配信までをワンストップで提供する動画マーケティングサービス「ターゲット・リーチセット」をリリース

● 約4億件のオーディエンスデータ※及びQuark tokyoが独自に実施したTV視聴やWEB動画に関するアンケート調査の結果データを掛け合わせて、広告主にとって最適なターゲットを選定することが可能に

● 選定したターゲットに合わせて「動画コンテンツの制作」から「動画広告の配信」までをワンストップで実施することを実現

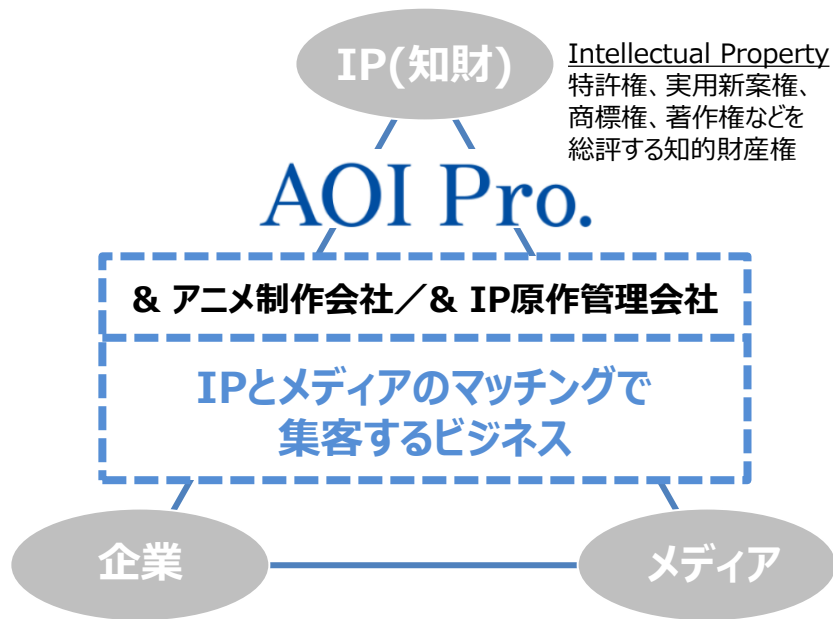
※ オーディエンスデータとは、Cookieのデータを元に個人を特定しないかたちで収集した、ユーザーのWEB行動履歴や属性データのこと



すべての過程において、同一データを使用  
データ分断なく、制作と配信の両軸での施策を最適化

# デジタル関連事業への取組み②

## 「IP×オンラインメディアサービス開発」にグループ内外アライアンスで着手



- ・映像制作以外のクリエイティブブランドとアライアンスを促進
- ・特にIP開発、活用を通じてストック型ビジネスに着手
- ・話題になるメディア出稿によってIPの露出も拡大

### リリース例 お金がテーマの「わんわんわんコイン」

第一弾コンテンツとして、キャラクター育成の実績とノウハウを兼ね備える(株) DLEと、「お金」をテーマにしたオリジナルアニメ「わんわんわんコイン」を共同開発。AOI Pro.グループのビジネス・アーキテクトが運営するマネー系メディア「マネーゴーランド」で2015年12月1日より隔週にて配信中。



### リリース例 独自の視点で悩みに答える「オネエコ」

第二弾コンテンツとして、キャラクター「オネエコ」を、AOI Pro.グループの(株)コンペイトウと(株) DLEで共同開発。「LINE LIVE」にて、タレントとの掛け合いをリアルタイムで生成するコンテンツを運営中。(LINEスタンプも発売)

この「オネエコ」は、テレビ地上波キー局の深夜枠でショートアニメコンテンツとしての放映が決定。オンラインコンテンツが地上波で放映されるという、逆流展開を実現。



## 今後の展望

- (株) Quark tokyoを中心に順次デジタルを活用したサービス領域を拡大し、アクセスデータの分析だけでなく、感情解析や、AI（ディープラーニング）を活用したサービスについても可能性を探っていく
- 平面ディスプレイ（PC、スマートフォン、スマートテレビ）での表示だけでなく、ヴァーチャルリアリティとも言われる3D表示映像の扱いも視野に入れ、映像と最新デジタルの融合を図る

### サービスの例

## AIクリエイティブディレクター

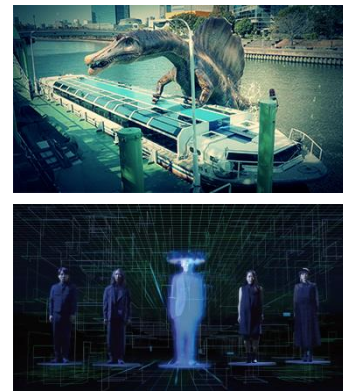
マッキャンエリクソンとの共同開発で、テレビCM受賞作品の過去データにタグ付けを実施して分析、クリエイティブ企画に活用する「AIクリエイティブディレクター」プロジェクトを推進。AIをマーケティング支援に活かすしくみを研究、開発している。



### サービスの例

## 3DCG制作への拡大

AOI Pro.グループでは、デジタルガーデンVCD部での「3DCG制作」をはじめ、3D表示ノウハウを蓄積。国立科学博物館／朝日新聞／テレビ朝日が主催する「恐竜博2016」のCG制作や、NHKの8K高画質フルCGの制作などを実施。VR、ARを含む新しい3D表現への対応を推進していく。



# その他トピックス

- ここ数年の取組みにより、映画業界における存在感は着実に増大
- コンテンツ制作能力と、AOI Pro.のブランド価値は確実に向上

映画「黒崎くんの言いなりになんてならない」が  
興行収入12億円、観客動員100万人を突破!



## 黒崎くんの言いなり になんてならない

©「黒崎くんの言いなりになんてならない」製作委員会 ©マキノノ講談社

2016年2月27日より全国160館で公開された本作は、公開初週の「全国週末興行ランキング」(興行通信社提供)で、観客動員数初登場第1位を獲得。同規模の邦画実写作品では異例の大ヒットとなりました。日本での大ヒットを受け、台湾での公開が決定し、フィリピン、香港、韓国など、アジア各国からも注目を集めています。

AOI Pro.出資・制作協力作品

是枝裕和監督の最新作「海よりもまだ深く」、  
カンヌ国際映画祭「ある視点」部門に出品!



©2016フジテレビジョン バンダイビジュアル AOI Pro. ギャガ

2016年5月21日に日本公開された<sup>これだ ひろかず</sup>是枝裕和監督の最新映画「海よりもまだ深く」が、5月に開催された第69回カンヌ国際映画祭の「ある視点」部門に出品されました。当社出資・制作作品としては、初のカンヌ国際映画祭出品作品となりました。

AOI Pro.出資・制作作品

当資料には、当社の計画と見通しを反映した将来予想に関する記述を含んでおります。

かかる将来予想に関する記述は、当社が現時点で入手可能な情報を基にした予想値であり、これらは経済環境、競争状況、新サービスの成否等、不確実な要因の影響を受けます。

従いまして、実際の業績はこの資料に記載されている将来予想に関する記述とは大きく異なる場合があることをご承知おきください。

また当社は、この資料の開示後において、かかる将来予想に関する記述を更新して義務を負うものではありません。